



SSH&国際探究ニュース

SSH & Global Education Reports

2年生対象のSSH講演会を実施しました!

「研究の最前線から未来へ — 大学で学ぶということ」

7月16日(木)、第2学年を対象にSSH講演会を実施しました。

講師には、本校卒業生であり、東京科学大学生命理工学院教授の桑 昭苑 先生をお迎えし、「研究の最前線から未来へ — 大学で学ぶということ」をテーマにご講演いただきました。

講演では、東京科学大学における教育・研究体制の紹介から始まり、生命科学・再生医療分野における最先端の研究について、実際の研究成果を交えながら分かりやすくご説明いただきました。

特に、ES細胞やiPS細胞、幹細胞を用いた再生医療、糖尿病治療に向けた研究など、生命科学の発展が医療にどのように結び付いているのかについて、生徒たちは大きな関心を持って耳を傾けていました。

また、ご自身が戸山高校から大学、企業での研究、大学院、海外留学を経て研究者となるまでの歩みを紹介され、「研究とは、答えを与えられるものではなく、自ら課題を見だし、粘り強く考え続ける営みである」と、探究活動にも通じる研究者の姿勢についてお話しいただきました。

さらに、「一つの研究成果が教科書を書き換えるまでには長い年月と多くの研究者の努力が積み重なっている」「一人でできる研究には限界があり、多様な専門分野との共同研究が新たな価値を生み出す」といったお話から、探究活動においても協働することの大切さを学ぶ機会となりました。

講演後の質疑応答では、生徒から再生医療やiPS細胞、共同研究、大学での研究生活などについて多くの質問が寄せられ、講師と活発な意見交換が行われました。自らの探究活動や進路について主体的に考える姿勢がうかがえる充実した時間となりました。

今回の講演を通して、生徒たちは大学で行われている最先端の研究に触れるとともに、「知の探究」で大切にしている課題設定や探究の進め方について理解を深めることができました。今後もSSHの取組を通して、多様な専門知を学び、協働しながら新たな価値を創造する力を育てていきます。



2年生参加者の声

「知る喜び」と飽くなき探究のプロセス

iPS細胞の具体的な医療応用を知る面白さや、仮説検証の繰り返し(実験と考察の循環)の先に未知の領域を解明する「計り知れない喜び」があることを学びました。

人生をかけた研究への敬意と憧れ

「教科書の1行を変える」という高い志を持ち、人々の命をつなぐ医療の発展のために挫折を乗り越えて挑戦し続ける、研究者としての生き方に強い感銘を受けました。

主体的なキャリア選択と行動力

研究環境を求めて海外へ渡った行動力や、自身の「好きなこと」「やりたいこと」を追求して楽しそうに語る姿から、躊躇せず積極的に挑戦していく勇気をもらうことができました。

目的意識を持ってやり抜く姿勢

学生時代から一貫した目的意識を持ち、興味のある分野を粘り強くやり続ける姿勢の大切さを学び、自分自身も将来に向けて同じように歩んでいきたいと強く思いました。